

(福)特別区社会福祉事業団 広報誌

SEED

9月号

自立支援センター

特集





PROFILE
理事 鎌形 由美子

東京都民生児童委員
連合会 常務委員

——本日はお忙しいなかインタビューを受けていただきありがとうございます。早速ですが、民生児童委員の役割やその活動について教えていただけますでしょうか。

現在、全国で約23万人、東京都は1万人の民生児童委員（以下、民生委員）が活動を行っています。地域にもよりますが、民生委員1人あたり300世帯程度を担当しており、東京はその倍以上になります。ちなみに、私の町会は少ない方で500世帯程度になります。

——500世帯ですがー多いですね。そのなか、どのような相談支援が多いですか。

一番は高齢者世帯への相談支援です。昭和45年から高齢化問題はあり、今も活動の中心となっています。そうしたなか、平成12年の介護保険制度の施行や平成17年には地域包括支援センターの設置もあり、高齢者世帯を取り巻く環境は大幅整備されてきています。現在は地域包括支援センターに繋ぎ、共に寄り添っていくのが民生委員の役割でもあります。

——なるほど。制度や包括との連携のなか、支援が充実してきているのですね。

高齢者関連以外では、シングルマザー世帯の困窮状態が見えにくいことが課題です。まずそのご家庭の状況を把握するのが大変困難です。困窮状態を言わない・言えないことや行政からあまり情報を得られない等のこともあり、民生委員が関わりを持つのは難しい現状です。今はマンションに住んでいる方も多く、訪問しても接触できないことは少なくありません。フードバンクに来ている等のことがあれば関わることもできるのですが。

——確かに関わりが持てないのは厳しいですね。行政からあまり情報を得られないとのことでしたが、民生委員と行政の関係はどのようなものになりますか。

行政からの情報提供は高齢者世帯が中心となります。ひとり親世帯や障害者世帯の情報はいまも共有されません。個人情報問題もあるので、ただ、行政も以前のような縦割りでは無くなってきています。例えば民生委員が対応したなかで重層的な課題を抱える世帯があった場合は、行政が中心となり関係機関の調整や全体での共有をはかり、その課題に対応していきます。また児童関連で言うと、民生委員には児童福祉に関する専門的な役割を担う主任児童委員がいます。網戸の時期とかは多いのですが、泣き声通報・見守り依頼があった場合の対応や児童相談所・子育て支援センター等との連携に特化した活動をしています。

——民生委員の活動範囲は本当に広いですね。また、私たち事業団の施設・事業の支援に重なる部分も多く、連携できるものがあるのではないかと感じました。最後になりますが、事業団職員にメッセージをいただけますでしょうか。

事業団の理事になるまで、こういった施設があることを知りませんでした。私の所属する東京都民生児童委員連合会の会員も知らない人は多いです。だからこそ、事業団や充実した設備のある施設のこと、多くの職員が支援に手を尽くしていることを知ってもらって、伝えていくのが、事業団の理事としての私の役割ではないかと考えています。また、民生委員としての立場から事業団と繋がれたらいいなと思っています。是非、民生委員の施設見学をさせてくださいね。

——是非、お待ちしております！

理事インタビューを終えて

今号ではこれまでの理事寄稿ではなく、趣向をかえ理事インタビューを行わせていただきました。取材班一同緊張をしていたのですが、鎌形理事の人柄に包まれ、予定時間を超えたインタビューとなりました！鎌形理事が「事業団のことを知ってもらって、伝えていくことが私の理事としての役割」と言われたとき、心に響くものがありました。記事に限りがあり載せられませんでした。民生委員の苦労話等興味深い話をたくさん聞かせていただきました。鎌形理事ありがとうございました。（編集＝青柳、撮影＝中西）

**特別
インタビュー**

民生・児童委員の活動とは？

もくじ

がんばろう
リジ インタビュー
みんせい・じどういいんの がんばろうとは？



とくしゅう
じりつしえんセンター
ちよだりょう → ちゅうおうりょう



ねんさいきがく
も〜っとしりたい！
きゅうごてんがん のとりくみ
さいしゅうしょう



しせつしょうがい
よどベース
りょうしゅインタビュー



しょくいんぎだんがい
しゅくちよくあるあるへん





職員インタビュー！ ～今後の野望とは～

▼当法人唯一の自立支援センター
千代田寮・中央寮はどんな施設ですか。

(榎) 当施設は、特別区(23区)内の路上生活等での生活を余儀なくされている方や、そのおそれのある方に対し、就労による自立と社会生活への復帰を支援する施設です。千代田寮では多床室でしたが中央寮では完全個室となり、施設の環境が画期的に良くなりました。緊急一時保護事業から始まり、生活面・健康面そして就労面の支援を実施し、地域移行までを支援していきます。また、入所期間の6カ月間だけではなく、退所



館内(事務所前)

▼中央寮のここからの5年間のなかでやりたいこと、成し遂げたいという野望を最後に聞かせてください。

後の1年間のアフターフォロー事業もあわせて1年6カ月間の支援を実施しています。

▼中央寮から全室個室化ということですが、支援内容はどう変わりますか。

(飯) 個室化にあたり変えなければいけないことが利用者の安否確認の点だと考えていました。具体的には1日2回の安否確認の徹底と月に1度の居室確認です。居室を訪室し生活状況や部屋の使い方を見ていくことは、ゆくゆくアパートでのひとり暮らしを見据えていることから、重要なことだと考えています。

(榎) 既に他のセンターでも個室化での運営が始まっていたこともあり、個室化にあつての問題や課題に関しては検討されていましたので、そこは中央寮開設準備から考えていました。課題としては職員との接点が少なくなってしまうひきこもりになってしまふ、部屋にゴミを溜めてしまふというものです。個室化で確保される「個」を大切にしながらも「孤」にしない支援が重要です。

(飯) 入所率、自立移行率と就労自立率全体の底上げをしていきたいと思っています。但し、数字だけではなく利用者との信頼関係構築・事業団のノウハウを活用した充実した支援、具体的にはこれまでセンターで培ってきた経験とミックスした支援を実践していきたい。個室化され環境が良くなり、もう多床施設であるということは言い訳にはできない。選ばれる施設となっていきたいです。



▼ご協力ありがとうございました！(編集 佐藤 香織)

東京都の調査でも都内のホームレスは減少しているとの結果が出ている。このような現状を踏まえると利用者の個別のニーズにしっかりと応え、より利用者一人ひとりの生活背景や価値観に寄り添った支援が求められるものと考えています。将来的には中央寮ならではの支援モデルを確立することが私の野望です。家庭的な雰囲気をつくり意識すること、「中央寮に来たらこんな支援が受けられる」「こんな風が変わった」という実感を利用者の方に持つてもらえるようチームで協力しながら進めていきたいです。

▶施設概要

自立支援センター 中央寮(R7.8/4 開所)

所在地:東京都中央区

連絡:03-6811-7444

▶対象地域

▶主な事業:路上生活者対策事業

- ①巡回相談事業
路上生活者の起居する場所を巡回して生活相談を実施
- ②緊急一時保護事業
路上生活者等の一時的な保護及び自立支援に向けたアセスメント等を実施
- ③自立支援事業
 - i 就労支援
就労及びその継続のための就労相談等により、就労自立に向けた支援を実施
 - ii 地域生活移行支援
アパート等を借り上げ、自立生活訓練の場として提供し、円滑な地域生活移行のための支援を実施
- ④地域生活継続支援事業
地域生活継続し再び路上に戻さないように訪問相談等のアフターケアを実施
- ⑤支援付地域生活移行事業
長期化・高齢化した路上生活者に対し、路上を脱却して安定した居宅生活を送るよう支援を実施



「いざ、巡回へ!!」

今回は対象地区を駆け巡る、〈巡回スペシャリスト〉の5名に座談会方式でインタビューを行い、巡回に必要な心得についてたっぷり語って頂きました!!



永島さん

久保田さん

結城さん

山本さん(現主任)

河崎さん(前巡回担当主任)

巡回相談事業 チーム座談会

——巡回チームの活動内容を教えてください。

山 対象区は千代田区、中央区、港区、新宿区で半日かけて巡回(週4日)をしています。ルートに関しては福祉事務所と調整していて、都度区からリクエストを受けたら、地域住民からの要望が入ったりすると、巡回ルートを変更しています。

実際の現場に赴き、路上生活されている方に声をかけ、安否や生活の様子を確認します。そのなかで医療や自立支援センター、支援付地域生活移行事業に繋がりのような方が居れば積極的にアプローチします。彼らが地域生活に戻る第一歩を手助けすることが主な仕事です。

——区からはどのような要望がありますか。

山 近隣住民からの要望や通行人からの苦情、警察、都庁等、様々なケースがあります。また、区より要望があれば、駅周辺の夜間の状況や、公園等の実情を確かめる為、夜間帯に巡回を行います。原則は、平日の日中ですが、可能な限り対応しています。

——いきなり路上の人に話しかけることは、勇気がいると思いますが、皆さんが実践されている話しかけるコツ等がありましたら教えてください。

永 最初は全く話さず、「帰れ」といついた人が、三年巡回し毎週会うなかで、

次第に目を見てくれたり、うなずいてくれたり、笑ってくれたり、段々と話をしてくれるようになりましたね。

久 いつもの時間に巡回にいけないと、「今日は遅いな」とか言ってくれるようになり関係性が変わっていきます。コッを使うというより、長くかわかることで、変化が生まれる感じです。継続は力なりですね。

山 巡回ですぐに成果を出そうと思うと失敗します。長い目で見て、関係性を作つてようやく彼らの変化に我々が支援という形で乗っかっていける。

向こうからしてみたら自分の土俵に相手がずけずけ入ってくるって気持ちになつてしまふから、そこは意識しています。

——実際に巡回をやられていて、思いうに残るエピソードを教えてください。

河 福祉事務所に繋いだところ、貯金が数千万あったケースがありました。意外にお金を持っている人は結構います。

永 人間関係が嫌で路上に出られている方と同じくらいに、寂しくて誰かと居たいって人も多いです。

我々が何度も声をかけると気を許してくれるのは、本当はそういうことを求めているからなんじゃないかなと思うこともあります。成果が見えづらいから大変な仕事だなと思いますけどね(笑)

たです。「こゝ家じゃないだろ」って思ったけどね(笑)。転勤で再度巡回事業を担当となつて会いにいったとき、「もどつきたか。元氣だったか」と言われ、嬉しかったし、そういうときに楽しいと感じます。この仕事ずつとやりたいなつて思いますが、私、非常勤で8年目なんですけど、更生、通所、宿泊所、本部分室とか色々回つて、それぞれやりがいがあったけど、巡回はものすごく面白いなつて感じてるよ。巡回チームのメンバーは、巡回に行くときみんな楽しそうに出掛けていくんだよね。年金トリオ(結城、永島、久保田)はニコニコ張り切つていつているよ(笑)。

——インタビューのご協力ありがとうございました!

——皆さんのやりがいは何ですか?

久 自分たちの巡回を待つてくれた時はやりがいを感じますね。

河 最初は話してくれなかった人が何度か通うと話してくれるようになるのは嬉しいですね。

——巡回チームで今後新たにやりたいこと、継続してやりたいことはありますか?

河 車両で巡回しているため、路上駐車の手書きが欲しいですね(笑)。

山 今の時期とても暑いので、クーラーボックスを購入して路上の方に冷たい飲み物を渡したいなつて思っています。暑い路上で生活されている人たちは気持的にも喜んでくれるし、それがきっかけで話ができると思っています。

また、他の事業の職員と連携して色々共有するスキルがあるため、一緒に巻き込んでやっていければ良いと思います。

——皆さんの思う『巡回』について一文字に表してください。

結 一文字は思いつかなかったけど『信念』ですね。路上生活者の方に「何故、福祉事務所にいかないのか?」と聞くと、「人に迷惑をかけたくない。」「税金を使わせない。」「と答える方が多いです。これは彼らの『信念』なんですよね。

永 『耐』かな。思っていることを何でも言うてしまう方がいいわけではありません。言いすぎないようにグッと耐える部分はあ



とある日の一コマ。雨の日でも巡回は行われる。

編集後記

私はホームレス状態の方への支援に憧れ、当法人に入職しました。

今回、憧れの巡回についてのお話を伺うことができ大変嬉しかったです。

インタビューを経て、巡回チームを一言で表すなら「色」だと思いました。

巡回チームのメンバーは全員個性豊かで、それぞれの職員が特色を活かした支援をされていると感じました。それぞれのカラーが混ざり合い一つのチームとして、より鮮やかな色彩を放ちながら利用者に寄り添っています。今回の取材を通して、支援の現場にある温かさや力強さを感じ、私自身も学びを得る機会となりました。(編集=三井)

継続は 力なり。

も〜っと知りたい！ 救護転換の取組

~Final Episode~ 最終章

あらすじ

前回・前々回のインタビューを経て、更生施設を取り巻く状況や、救護施設のリアルな日常を知ったウサギ。現在、事業団ではチームを結成し救護施設転換に向けての準備を進めているが、事業団の掲げる「通過型救護施設」とはどのようなものなのか。チームメンバー3名から話を聞くことにした。

チームメンバー紹介



アキラ

A チームのリーダーを担当。ゲテモノ料理店へ行ってみたく、一緒に行ってくれる人がいないことが最近の悩み。



ガッキー

B チームのリーダーを担当。プライベートは謎に包まれており、付き合いの長いナベさんを中心に調査を進めている。



ナベさん

チームの統括を担当。プログレッシブロックが好きで、ときどきライブハウスへ足を運んでいる。



ウサギ

救護施設の受託に向けてどのような準備をされていますか？

A チームは仮想支援をテーマにしています。架空事例を用意してどんな支援が必要か検討しています。まだ始めたばかりで手探りの段階ですが、今年度いっぱい固めていきたいです。



アキラ

B チームは日中活動がテーマです。所内作業、行事、地域との交流、ボランティア、と4つの部門に分けて、どのような日中活動を取り入れるか検討しています。他法人の救護施設へ派遣に行ったメンバーの経験や、所属施設で取り組んでいる日中活動を共有して、自由に意見を合っています。



ガッキー



ウサギ

チームごとにテーマを分けて活動されているんですね。では続いている質問です。救護施設への転換によって、できるようになることはありますか？

救護施設は更生施設より職員数が増えるので、利用者一人一人に関わる時間を増やせるのではないかと思います。特にBチームが検討している日中活動や、利用者の同行支援なども充実したものになりそうです。



アキラ



ガッキー

私も同意見です。現在私の施設では、コロナがきっかけで取組まなくなってしまったアルコールの学習会や就労のガイダンスなどの再開を検討しています。新しいことに取り組める反面、職員の中には不安を感じる方もいると思います。そういった不安を払拭して楽しくできるように意識して取り組んでいます。

なるほど。段々解像度が上がってきました。ビジョンとして掲げているものはありますか？



ウサギ

チーム結成当初、「どういう施設を目指していきたいか」というテーマを考えたのですが、それが【とまり木となる施設】でした。さらに細かく具体的な標語が3つあって、「利用者が安心・安全に生活が出来て、希望が行き交う施設」「温かみを感じられる日常的な関わり」「地域社会への復帰」です。



アキラ



ガッキー

私は職員が生き活きと仕事ができるような救護施設にしたいですね。恐らく全体の業務量は増えるのですが、その分自由度は高くなる。常識に囚われすぎないようにしたいな、と思っています。

ありがとうございます。それでは最後に、職員にメッセージをお願いします！



ウサギ



アキラ

私たちのチーム以外にも、救護施設運営に向けて動いている職員はたくさんいます。救護施設を運営していくという気持ちで、少しでも救護施設に興味を持って勉強していただければと思っています！

今回の記事も含め、「今こんなことやってるんだな、法人が」と興味を持ってもらいたいですよね。誰かがやっているというよりは、法人の中で自分と同じ同僚が活動してるんだなというところに興味持っていただけたら嬉しいなと思います！



ガッキー

お二人のメッセージに、今回のインタビューの思いが凝縮されているように思います。本日はありがとうございました！



ウサギ

救護チームの グランドルール

- 一 各テーマ、必ず1人1回は発言する(パスOK)
- 二 相手の話を素直に聞く
- 三 相手の意見を否定する場合は代案を提示する
- 四 決まったことに対して、後出して不満を言わない(より良くする意見はOK！)
- 五 意見が割れたら、ジャンケンで決着する

自由な発想に意見の違いは付き物。そんなときはグランドルールに立ち戻って議論を進めています。皆さん積極的に意見を出してくれるので、話し合いの場ではグループダイナミクスが生まれ、実りある議論につながっています。



救護施設研修の様様



救護施設真和館・藤本理事長をお招きし救護施設についての研修を実施するなど、職員育成に力を入れています！





よどベース



プログラムの内容

プログラムの中心「よどカフェ」は、利用者がふらっと立ち寄ってコーヒーやお茶を飲み、職員や他の利用者と会話して楽しむサロンのような役割です。他にも絵画教室や映画鑑賞、ボードゲームの会、またネイルや手芸など女性利用者のみのプログラムも実施しています。

事業の様子について

利用者は1日5～10人近く来所します。年齢は23歳～76歳までと幅広いです。何かあれば相談に来たり、仕事や通院の後に立ち寄る方もいて、それぞれの使い方で利用できる自由度の高さを大切にしています。また必要に応じて職員や看護師が居宅に訪問することもあります。

よどベースの成り立ち

更生施設淀橋荘が3月で閉鎖となり、通所事業も終了となりました。淀橋荘の退所後に居宅生活を始めた方、以前から通所していた方が、引き続き地域で自立して生活できるよう支援することを目的として開始した事業がよどベースです。

利用者インタビュー



Q.よどベースってどんなところ？

Yさん：自分の悩みや生活の相談ができる場所。ひとりだと不安になる時もあるから、人に会いたいと思ったらここに来ます。

Sさん：無いと困る場所。淀橋荘が閉鎖すると聞いて、もう区役所でしか相談できる場所がないと思っていた。よどベースができて、ちょっとした相談もできるし、自立に向けた取り組みを見守ってもらっている。職員の方もよく知っている方なので安心感があります。

Q.よどベースの思い出深いエピソードは？

Yさん：絵画教室が楽しいし、職員と話すことも楽しい。今後、調理実習もできたらいいな…

Sさん：ひとりしていると笑うこともないから、みんなでボードゲームをしてワイワイ笑ったりできるのがいい。食事会があって、いろんなレトルトカレーの中から、自分ひとりでは絶対買わないグリーンカレーを試して食べてみるのができたのも良かった。あの後グリーンカレーにハマっています(笑)。

Q.よどベースの職員へひとこと

Yさん：体が悪い時や、入院した時に、電話をくれたり心配してくれたりする。相談にのってくれるし、自分で解決できないことを、一緒に解決してくれるから、ここまで復活できたし、一人暮らしも継続できていてありがたいと思っています。

Sさん：何を言いたいのかを親身になって聞いてくれて、解決に向けて早急に対応してくれるのがうれしいです。

施設長メッセージ



よどベースでは、利用者さんが行事を楽しんだり、ふらっと立ち寄って話したり、困ったときに相談して一緒に解決を目指す場所です。新宿区にはたくさん社会資源があるので、関連機関の方とも良好な関係を築きつつ、利用者みなさんに情報提供したり、コーディネートをしていけたらと思います。

(編集＝森、撮影＝早瀬・森)



室内には利用者制作の絵画を飾り、
素敵な空間に…



コーヒーを淹れる阪本職員

沼田：今日は職員の座談会ということで、テーマは「宿直あるある」です！

◎宿直ってどんなイメージ？

添野：(更生施設は)職員配置も夜間は2人なので、トラブルが発生したときの対応に大変さがあります。佐藤香：私は他業種から専業主婦を経て転職したので、宿直はまだ大変ですね。拘束時間も長いですし、緊張感ありますね。

沼田：イメージとしては、少しネガティブな印象が強いですかね。

佐藤文：何が起きるかわからないじゃないですか。救急対応や事件が起きることもあるし。そう思うと眠れなかったり…。

◎夜は眠れるの？

沼田：そうそう、何かあったら起きなきゃならないから、夜はなかなか寝付けないんだよね。

佐藤香：私もしつかりは休めないかも。業務の事とか気になったりしちゃって。

三井：毎度何か起きるわけではないし、しっかり休むためにも気持ちの切り替えが大事ですよ。

佐藤文：どうでもいい疑問なんだけど、寝るの時は何書い寝るの？

三井：私も気になるー！

～宿直あるある編～

職員座談会

ハシヤスメ
企画

座談会メンバー：沼田 / 佐藤(文) / 三井 / 佐藤(香) / 添野 / 森

佐藤香：寝具やジャージ一式を支給してもらったから、それ着ていますね。沼田&森：Tシャツ短パンですね。添野：僕はパジャマ着ますー！



一同：かわいい！(笑)

三井：私は寝袋とマイ枕も用意していました！

沼田：リラックスできるよう工夫も大事ですね。夜食を食べたりとか。

森：一段落ついたタイミングで、買ってきたスイーツを夜間支援員さんと分け合いっこすることがあります(笑)三井：良い！私は絶対わさびとハーゲンダッツ！

佐藤香：私はスリッパやお風呂に入って気持ちを切り替えています。シートバックしたり！

佐藤文：それいいですね！宿直室にマッサージ機とかちよつといいドライヤーとかあったら良いよね。

三井：宿直をしたらみんな肌ツヤ良くなるし、宿直が楽しみになりますね！

添野：僕はゲームしたいです！各施設の宿直者とオンラインで対戦したり！もちろん冗談ですけどね…(笑)

佐藤文：ゲームはダメですね(笑)。でも環境を整えることは大事ですね！森：皆さん宿直を最大限謳歌しようとして下さい！

佐藤香：明けの朝はこ機嫌で窓口立ちたいですからねー！一同：素晴らしいー！

◎宿直のメリットは？

沼田：平日休みのメリットはありますよね。僕は子どもがいますが、子どもがいない時間帯に帰って昼間にゆっくり眠れます。その時間は天国です！

佐藤香：平日休みだと子どもの学校行事も参加しやすいですよ。宿直明けは午後休みみたいな感じだから、遊びに行ったりもできる(笑)

三井：明けの日にサウナ行って、ビール飲むの最高！でも20代の頃と違って、体力的に明けて遊びに行けなくなってきた…。

佐藤香：明けよりも2日後がきつかったりする(笑)

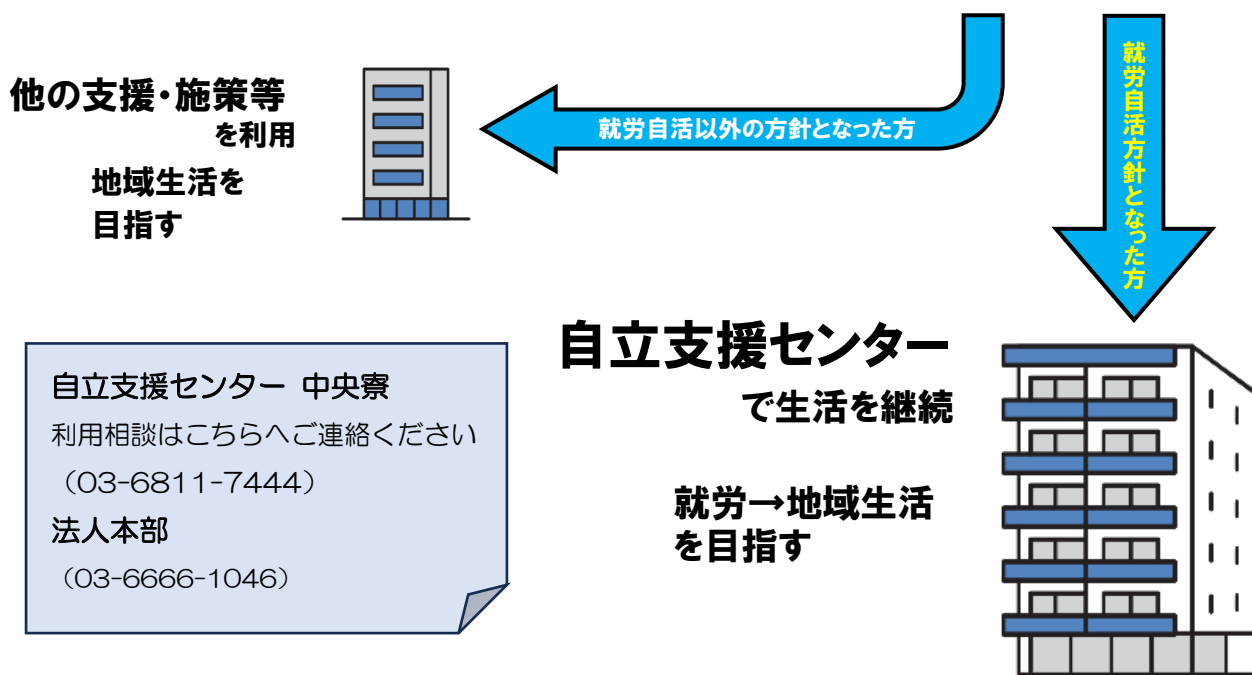
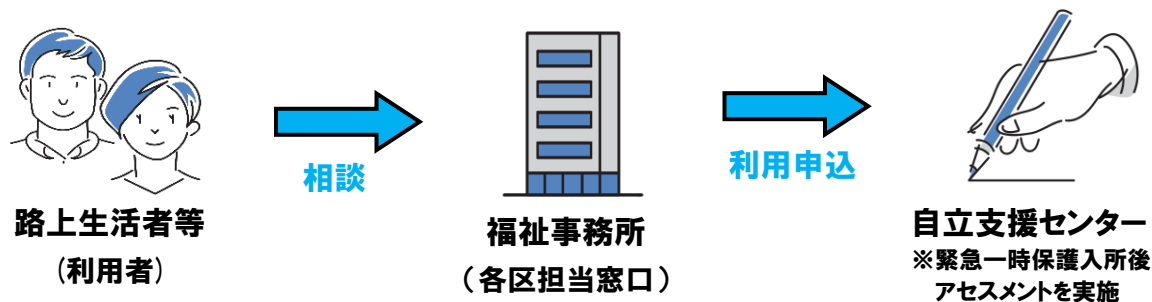
沼田：筋肉痛みたいだね(笑)森：あと些細なことですが、これから仕事が始まる職員の方たちを横目に「お先失礼します」と帰る優越感があります(笑)

三井：清々しい朝ですよー！佐藤文：皆さん楽しみがたくさんあったり、充実した気持ちになるんですね。

沼田：それぞれ工夫をしながら、ポジティブに業務にあたっているのが印象的でした。私たちの仕事は大変なこと多いですが、前向きに楽しくやっています(笑)。またぜひこのような場で情報交換しましょう！本日はありがとうございました！



自立支援センターの利用・申込について



事務局 清水の 
しょうもない話がやめられない

私、本委員会の任期を全うしたのですが、このコーナーは継続するそうです。「委員でないのにおかしい!!」「研修を受講する等して、新たな委員が担当すべきだ!!」と思ったのですが、よくよく考えるとそのしょうもない研修の講師は私だと気づきました。早いところ新しい企画をお願いいたします。

編集後記

救護施設の連載企画を担当した中西です。実は第1回が「宇宙」、第2回が「月面着陸」、そして本号掲載の最終回は「地球へ帰還」というテーマ設定でした。ぜひ見比べてみてください。そして、広報誌メンバーは入れ替わりもあり新たな風が吹いています。新しいメンバーに負けないよう、今年度も盛り上げていきたいと思っています!

【制作・編集担当】中西

本号の COVER MODEL

指導員 山本さん (本人コメント)

初めにこのお話を頂いた時に、被写体として私が写っても大丈夫なのかと思いました。前号の方が爽やかで相應しいと思いましたが、せっかくのお話なのでお受け致しました。

髪を切り当日は化粧をして少しでも爽やかになろうとしましたが、あまり上手くいかず。暑い中での撮影だったので、化粧が落ちないかヒヤヒヤしました。やはり、普段からの行いが自然と写真に写るようですね(汗・・・)。

今後も巡回中にヒヤリとする場面もあると思いますが、福祉事務所と連携して、上手に乗り切っていきたいです。